



平成 30 年 11 月 12 日

各 位

会 社 名 豊 商 事 株 式 会 社
代表者の役職名 代表取締役社長 安 成 政 文
(J A S D A Q ・ コード番号 8 7 4 7)
問 合 せ 先 専務取締役管理本部長 多々良 孝之
電 話 番 号 (0 3) 3 6 6 7 - 5 2 1 1

平成 31 年 3 月期第 2 四半期累計期間の連結及び個別業績見通しに関するお知らせ

平成 31 年 3 月期第 2 四半期累計期間(平成 30 年 4 月 1 日～平成 30 年 9 月 30 日)の連結及び個別業績につきましては現在集計中ですが、決算の概要がまとまりましたので速報値としてお知らせいたしますとともに、前年同期実績と比較して差異が生じる見込みですので、下記のとおりお知らせいたします。

記

1 . 平成 31 年 3 月期第 2 四半期累計期間の業績速報値及び業績の差異

(1) 連結

(単位：百万円)

	営業収益	営業利益	経常利益	親会社株主に帰属する 四半期(当期)純利益
当第 2 四半期連結累計期間速報値 (平成 31 年 3 月期第 2 四半期累計期間) (A)	3,216	566	571	441
前 年 同 期 実 績 (平成 30 年 3 月期第 2 四半期累計期間) (B)	1,584	397	367	404
増 減 額 (A - B)	1,631	964	938	845
増 減 率 (%)	103.0	-	-	-
(参 考) 平 成 30 年 3 月 期 実 績	4,978	293	334	267

(2) 個別

(単位：百万円)

	営業収益	営業利益	経常利益	四半期(当期) 純利益
当第 2 四半期個別累計期間速報値 (平成 31 年 3 月期第 2 四半期累計期間) (A)	3,128	518	547	436
前 年 同 期 実 績 (平成 30 年 3 月期第 2 四半期累計期間) (B)	1,561	387	340	375
増 減 額 (A - B)	1,566	906	888	812
増 減 率 (%)	100.3	-	-	-
(参 考) 平 成 30 年 3 月 期 実 績	4,909	292	367	305

2. 差異が生じた理由

(1) 連結業績見込み

平成 31 年 3 月期第 2 四半期累計期間の我が国経済は、日本銀行による金融緩和政策が継続される中、一旦は豪雨等の影響により輸出や生産活動が弱含む場面もありましたが、堅調な世界経済、設備投資の増加及び雇用者所得の拡大を背景に、企業収益や個人消費などは総じて回復しており、先行きの経済も輸出や個人消費が起点となり緩やかに回復する見通しであります。

一方、世界経済は、米国では金融政策及び通商政策ともに新たな段階へと変貌し、堅調な企業業況を背景に景気拡大を継続しております。中国では貿易摩擦等不確実性の高まりなどを背景に金融政策はより経済の安定を重視する一方、外需にけん引される格好で生産活動は拡大してはりましたが、輸出の伸びの鈍化により減速基調になっております。今後の世界経済全体では緩やかな回復を維持する見込みであります。

このような環境のもとで、当社グループの当第 2 四半期連結累計期間の商品先物取引の総売買高は 1,053 千枚(前年同期比 8.7%増)及び金融商品取引の総売買高は 783 千枚(前年同期比 15.0%減)となり、受取手数料は 2,955 百万円(前年同期比 90.4%増)、売買損益は 259 百万円の利益(前年同期比 735.4%増)となりました。以上の結果、営業収益 3,216 百万円(前年同期比 103.0%増)、経常利益 571 百万円(前年同期は 367 百万円の経常損失)、親会社株主に帰属する四半期純利益 441 百万円(前年同期は 404 百万円の親会社株主に帰属する四半期純損失)を計上する見込みであります。

(2) 個別業績見込み

個別業績の対比につきましては、営業収益 3,128 百万円(前年同期比 100.3%増)、経常利益 547 百万円(前年同期は 340 百万円の経常損失)、四半期純利益 436 百万円(前年同期は 375 百万円の四半期純損失)を計上する見込みであります。

以 上